

日時：平成31年3月27日（水）16：00～17：15

場所：市役所 第2委員会室

出席者：佐々木会長、林委員、伊藤委員、長谷部委員、北原委員、森下委員、中島委員、原委員、
西塚委員、上河内委員
佐藤行財政改革推進本部長、寺澤総務部長、塚平財政課長、土屋人事課長、串原企画課長

欠席者：小林委員、佐々木（志郎）委員、下平委員、中山委員、

1 開会

2 あいさつ

(佐々木会長)

この行財政改革推進委員会も任期最後の委員会になる。この間、委員の皆さんには忙しい中出席しご意見いただいたことに感謝する。こういう委員会は形式的になりやすい。行財政改革という大きな仕事をするため、自らも律しなればいけないということで、内容をできるだけ重視して、資料の事前配布や皆さんから出していただいた意見等がどのように予算に反映されているのかという資料も出すようにした。また、施設に関係する提言書を市長に提出した。これからも飯田市にとって大変な時が続く。課題も山積しているが、良い方向へ市民を導いていただきたい。当委員会も責任の重大さを認識し、さらに継続発展することを願う。

(佐藤行財政改革推進本部長)

年度末の忙しいところ出席いただき、また、委員それぞれの立場で市政に尽力いただいていることに感謝する。本日の会議は任期最後の委員会となる。これまでの間いろいろな意見をいただくとともに、様々な活動をしていただき感謝する。

皆さまの意見を取り入れながら2019年度の予算が編成でき、議会で認められた。来週から新年度になるが、本日の委員会では、皆さまの意見を予算にどのように反映させていただいたかを含め、来年度の行革実行計画についてまとめたのでそれを説明させていただき、意見をいただければと思う。本日も活発な意見をよろしくお願ひしたい。

3 協議事項（議事進行：佐々木会長）

飯田市行財政改革大綱に基づく実行計画（2018年度の取組・2019年度の計画）について

(塚平財政課長 説明)

(原委員)

主要4基金の残高40億円以上確保と地方債残高550億円以下ということで、基金残高40億円は確保されているが毎年減っている。本日配布の広報いいだにも「基金が減っているけど大丈夫？」と載っているが見込みはどうか。この文章のQ&Aだけでわかるのかどうか。地方債残高550億円以下についても、毎年減ってはいるが550億円以下にはなっていない。見込みはどうか。

(塚平財政課長)

今後さらに大きな事業が予定されており、財政的に苦しいのは事実。当初予算の概要28、29ページに基金と地方債残高の推移が載っている。行革大綱の目標である主要基金40億円以上、地方債残高550億円以下をこれまでの推移で見ると、特に地方債については順調に減少してきている。このままいけば550億円以下という目標は達成できる。順調に償還が進んでいることや、事業内容に応じて起債の借入れを行っていることから、十分達成可能な数字と考えている。

基金残高の推移について、主要4基金の残高を40億円に抑えるための方策として考えているのは、起債の償還に充当するための減債基金を、平成31年度当初で14億7,000万円から11億2,500万円ということで3億5,000万円ほど取り崩す予定になっている。起債の償還については、年度ごとに計画的に償還しており、減債基金を取り崩さなくても起債の償還を行える目途がたっているため、今の状況なら目標を達成できる。47億円、48億円という残高が確保できれば2020年度末で40億円という目標は十分達成可能と考える。今後非常に厳しい財政状況が続くことから、40億円をどう保っていくかということも含めて、その他の特定目的基金という基金もあるが、そうした基金も上手に使いながら財政運営を行っていくこと、実行計画を着実にやっていくこと、できるだけ早い時期から構造的な改革を進めることで、こうした部分をきちんと確保していけるような財政構造にしていきたい。

(林委員)

5ページ、6ページについて業務委託やシステム化を進めることにより効果が出ているということなので、引き続き重点的に進めていただきたい。特にシステム化は、住民のレベルであっても、申請や登録など事務的な負担が軽くなる部分であり、市民と行政とお互いにとってよいこと。そういった部分は優先的に進めていただきたい。

16ページのOJTについて、昇任要件を満たす者に占める希望者の課長級が25.0%ということは、課長に昇任できる条件を満たしている職員が20人いたとすると、課長になることを希望する職員は5人ということ。意外なことで、民間企業でそういうことがあるのかということがある。希望する者の率が少ないのは具体的にどういうことか。要因は。

(塚平財政課長)

システム化は民営化の取組みと同様、限られた人材でどう効率を上げて住民サービスをより向上させていくのかという観点から、かなり踏み込んだ協議をしている。より大きな部分でのシステム化を検討する中で、予算に反映させていきたいと考えている。導入の初年度は経費がかかるが、5年、10年と長い目で見たときに、取り返せるような部分も踏まえ、初期投資がかかっても具体的に検討を進め、できるものは導入していきたい。

(土屋人事課長)

課長職への希望者の率が低い。前年度よりも落ちている状況にある。課題にもあるが、業務が多様化する中で、課長がプレーヤーにならざるを得ない。部下からするとマネジメントなど負担に感じる場所もある。就職してから自分がなりたい自分の像を、早くからイメージするというのをやっていた。理想とする管理職をイメージできないということもある。現在キャリアデザイン研修に重きを置いてやっている。

(林委員)

仕事が大変だからやりたくないとなってしまうと、行財政改革をするとなったときに、ある程度先端的にやっていかなければならない人のモラルやモチベーションが失われる体制になっていくのではと危惧する。キャリアデザインという部分もあるが、ポストのやるべき役割を意識しながら、管理職がやっていかなければならないことがたくさんあると思う。そういうことを発揮できるようなシステムを考えて、要件を満たしたら率先して手を上げるとか課長になりたいとか、その人が考える課長像が改革につながる部分で出てくるということが、内部的に必要なこと。モラルアップ、モチベーションアップをより醸成するようなシステムを考えていただきたい。

OJT オン・ザ・ジョブ・トレーニングというのはこの内容にはそぐわない。公表する資料なら、キャリアアップ、モチベーションアップのための教育としたほうがよい。

(佐藤行財政改革推進本部長)

今の指摘については、深刻に捉えている。単純にシステム化や研修の問題ではなく、市役所全体の活力に関わる部分。職員が仕事を通じて、どういう飯田市を実現したいのかというモチベーションが低下している。そういうことを組織の中でやっていきたいという意欲がないというのは非常に深刻な問題。市役所全体の活力が今後どうなっていくかにもつながる。小手先の話ではなく根の深い問題だと捉えている。トップマネジメントの問題もあると思うし、仕事の仕方の部分で変えるべきところが

ある。ご指摘のとおりその部分をしっかりやらないと、市役所の仕事のやり方がこのままでいいのかという問題になってくる。しっかりやっていかなければと思う。

(上河内委員)

8ページの働き方改革の子育て世代等に配慮した採用形態の推進について、女性が一旦子育てに入るとその後就職するのが大変だということを身をもって体験した。このような内容で柔軟に働けるようにしてもらえるのは、働きたい意欲を持った女性はたくさんいると思うので、こうした取組みを進めることはWIN WINの関係でありよいことと思う。

15ページの会計年度任用職員制度とはどういう取り組みなのか。双方にメリットがあるものなのか。
(土屋人事課長)

8ページについては、いただいたご意見のとおり、できるだけ働く方の都合に沿えるよう短時間の勤務も考えていきたい。

会計年度任用職員制度について、今までは臨時職員は正規職員と違い、休暇に関しても格差があったが、これからは育児休暇も取得できるようになる。任期は1年で今までと同じ取扱い。フルタイムかパートタイムかの違いはあるが、正規職員と同じようにということで評価制度が入る。制度の詳細は随時お知らせする。現状の雇用形態が悪化することがないように細かい配慮をしていきたい。

(上河内委員)

女性にとっても責任を持って仕事をしようとする動機付けにもなる。

(中島委員)

昇級について、女性が課長になるのは大変なので断るという話を聞くがどうか。希望する課に配属されないことが大変ということか。女性の希望者が少ないということについて聞きたい。

(土屋人事課長)

女性の場合、係長になる時点で足踏みをする。40歳くらいで子供が小学校や保育園に入り手がかかる。自分のライフイベントのサイクルと昇格のタイミングとが合わないなどで控える。課長補佐となると、40代後半から50代で、親の介護が始まる。課長となるとさらに年代が上がるため控えるということになる。ロールモデルというか、あの人のようになりたいという理想があまりない。今でなくてもという戸惑いが多い。そういったことも解消できるようにキャリアデザインの研修の中でやっていきたい。

希望する課への配属というのは、全体の人事の中では難しい。

(中島委員)

課長職は希望しないと昇任できないのか。

(土屋人事課長)

在職期間や経験年数により、課長になれそうな年代の職員に対象であるということを知り、本人の手上げ方式で選考する。部長や課長による他者推薦はあるが、その場合も本人の意思表示が必要。

(中島委員)

女性が少ないのは残念だと思う。

(北原委員)

14ページの職員採用の多様性について、課題として行政初級、土木初級の申込者を増加させる必要があるということで、2019年度の計画の中で、高校生を対象とした現地見学会等により技術系職員の確保に努めるという表記があるが、高校を卒業すると大学や就職で外へ出ていってしまう現状がある。自社でも地元の高校生を学校推薦により採用している。高校を卒業した時に、地元へ就職して地元へ残るとすることも大変大事なこと。高校性を対象とした見学会の他に何か施策的なことはあるのか。最近の高校生の採用数は。

(土屋人事課長)

地元の高校生の確保が非常に難しい。特に土木技術職は難しい状況。高校生の採用というと、行政初級、土木初級が対象となる。平成30年度は学校推薦で4名採用した。改めて当地の高校性の獲得に関してやっていることというと、高校在学中の2年の夏や3年の春休みに社会インフラの施設見学を

2回実施した。2回目は人数が増えたので期待している。今後もいろいろな手段でアプローチをしていきたい。

(西塚委員)

13ページの職員数の管理について、リニアの事業や働き方改革などで職員は大変だと思う。市の職員になってよかったと思えて、市民からは職員の皆さんがよくやってくれると言われるように、人数にこだわらず市民サービスができるよう、いろいろな面で大きく考えていただきたい。定数については、いくらかプラスマイナスがあってもよいのではと思うが、定数は決めればそのままなのか。働き方改革の中で時間の制約や、飯田市の場合はリニアの問題とかがあり、決められた人数でそれだけのことをやるとなると職員の負担が多くなる。今までの人数で、これからの厳しい事業をやっていくことができるのか。

(寺澤総務部長)

市民サービスを第一に考える。議論の積み重ねの中で、職員の定数管理に基づく一定の職員数を示している。現在に至るまでも、専門的な領域や一時的な業務については、定数管理をどうするのかということで、例えば土地開発公社やリニアの用地を専門的に取得する業務については、臨時的な対応もしてきた経過がある。財政的なことも踏まえてどこまで定数管理をするかは今後のことをしっかり見極めて、そうは言っても専門的な領域については、民間の皆さんの派遣や力を取り入れながらまず市民サービスを第一に考え、職員の働き方と両立できることについてしっかりと進めていく方策をとっていきたい。今のところ一定の枠の考え方については、水準をどこかにおかなければいけないということで一つの目安に考えている。

(森下委員)

職員定数について、最初にこの委員会で示された人数は多かった。それでは多いのではということで、だんだんと減になってきている。新聞に掲載される人事異動の状況を見ると、兼務の発令が多い。夜間の会議に出席していて、帰る頃にもまだ電気が点いている。夜の9時や10時でも仕事をしている。これだけ電気が点いていて地球温暖化にならないか、職員の健康は維持されているかということが気になる。これは大変なこと。ひとりが兼務でやっているから仕事が終わらないのではないか、これからどうなっていくのかということがある。

地元への就職について、孫の話をすると、地元で働きたいとか手に職を持ちたいということで、高校を卒業し地元で働いている。地元就職してくれると親もありがたい。

(佐々木会長)

職員のモチベーションが低下している。市の頭脳集団がそんなことでは、これからの大変な時期を乗り切っていけない。しっかりやっていただきたい。高卒の採用者でもしっかりやっている人や、臨時職員でも立派な人が多くいるのでそういう人を引き上げていくシステムの構築など、そうしたことを大胆にやっついていかないとたないという心配がある。

財政が大変厳しいということで、少子化、高齢化で税収が減っていく。税収を増やす方針に力を入れないとどうにもならない。徴収率が飯田市は県下一ということで、収めるべき人の税はしっかり徴収している。全体の税収をどうやって増やしていくかということ、目標を立ててしっかりやってほしい。

(寺澤総務部長)

それぞれ貴重な意見、助言、提案をいただいた。事務局としてもしっかり取り入れていく。他に意見等あれば、意見集約票を記入し、後日事務局へ提出を。

4 報告事項

平成31年度予算の概要及び行財政改革の取組に対する推進委員のみなさまからの意見等の反映状況について (塚平財政課長 説明)

※質疑なし

(佐藤行財政改革推進本部長)

委員の皆さまには3年間、行革推進委員として市の行財政改革について、それぞれの立場から意見をいただきお礼申し上げます。現行の行財政改革大綱は、1年目の任期の時、平成28年度に作っていただき取り組んでいる。実行計画で説明したとおり、飯田市を取り巻く状況は益々厳しくなっている。一方で積極的にいろいろなことに取り組んでいかなければいけない時期を迎えている中で、非常に難しい舵取りが求められている。そうした中、委員の皆さまには、建設的なのを射た意見をいただきこの3年間やってこれたことに改めて感謝する。今後それぞれ立場は代わっても、引き続き気づいた点があればご指摘を。市の取組みの中で市政に尽力いただければ幸い。3年間の尽力に改めて感謝する。

5 その他 事務連絡

6 閉会